

令和7年度 大阪市立心和中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標をもち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

令和7年度 大阪市立心和中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【＝Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)			平均IRTスコア
実施月日			国語	数学	国語	数学		理科
3 年	学校	15	単学級のため非公表				学校	単学級のため非公表
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月18日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9/3・9/4	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	12.1

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査（GTEC）

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
実施月日			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	13	—	—	—	—
10月17日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

令和7年度 大阪市立心和中中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

令和7年度調査においては、在籍生徒数34人のうち、国語15人、数学14人、理科12人が調査に取り組んだ。

国語においては、全国と比較して、特に記述式の問題の平均正答率が低い。

数学においては、全国と比較して、特に「図形」「関数」「データの活用」の平均正答率が低い。数学においても記述式の問題の正答率が低いものの、選択式の問題については平均正答率が全国平均を上回っている。

生徒質問紙において、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定回答は、全国平均92.2%に対し100%であった。一方で「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定回答は60%と全国平均67.5%を下回った。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定回答は80%と全国平均86.1%を下回っている。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

在籍生徒34人のうち、国語は22人、社会16人、数学21人、理科18人、英語20人がテストに取り組んだ。

5教科のうち、国語の平均点が最も高く、理科の平均点が最も低かった。

国語においては、「書くこと」及び「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての平均正答率が高く、「我が国の言語文化に関する事項」及び「情報の扱い方に関する事項」についての平均正答率が低い。

社会においては、地理的分野の平均正答率が歴史的分野を上回っている。

数学においては、「図形」及び「数と式」についての平均正答率が高く、「データの活用」についての平均正答率が低い。

理科においては、「生命」についての平均正答率が高く、「粒子」についての平均正答率が低い。

英語においては、「聞くこと」についての平均正答率が高く、「書くこと」についての平均正答率が低い。

また、アンケート結果において、「あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある。」の肯定的な回答は91.7%と、府平均より5.5ポイント上回っている。とりわけ最も肯定的な回答は54.2%と、府平均を14.5ポイント上回っている。一方で「難しいことがあっても、あきらめない。」の肯定回答は58.3%と、府平均より19.46ポイント下回っている。

○大阪市英語力調査

リーディングとライティングは13人、リスニングとスピーキングは12人がテストに取り組んだ。

スピーキング以外の領域ではCEFR-Jにおける英語力レベルはA1.1、スピーキングはPre-A1であった。

【今後に向けて】

・不登校を経験した期間がそれぞれ異なるため、学習の到達度も異なっており、各教科の学習においては個別最適学習の充実に努める必要がある。セルフクエストのあり方を検討したり、スタディサプリ等のツールを活用したりすることで、個々の生徒の学習を支援していく。また、5教科の授業においては少人数習熟度別で進める等、生徒の理解を着実に深めていくことができる工夫を行う。

・全教職員で組織的に生徒理解を深めるとともに、心の天気や相談申告機能を活用することで、生徒が相談しやすい環境づくりを継続する。

・個々の生徒のニーズに応じた職場訪問・体験等、一人ひとりの生徒を尊重したキャリア教育の充実に努め、生徒が自らの進路に前向きになることができるよう支援を行う。

令和7年度 大阪市立心和中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

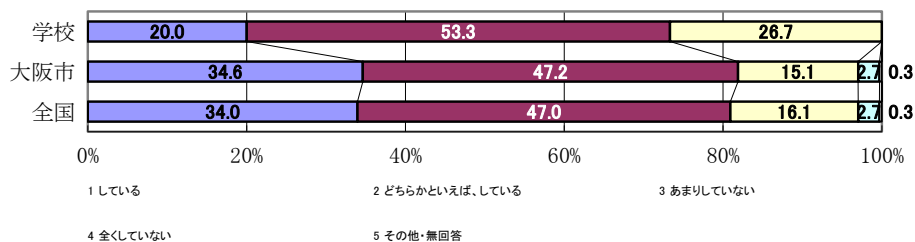
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

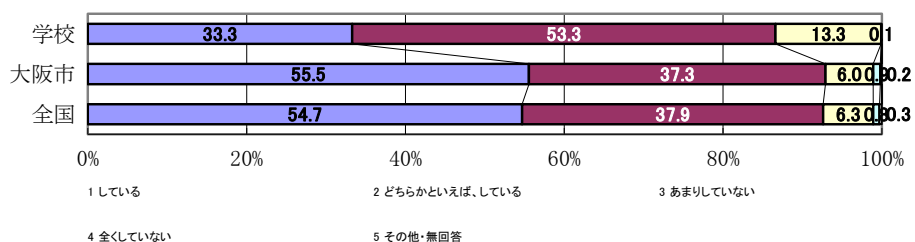
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



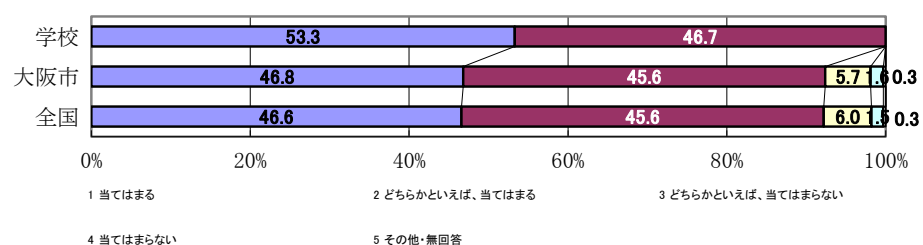
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



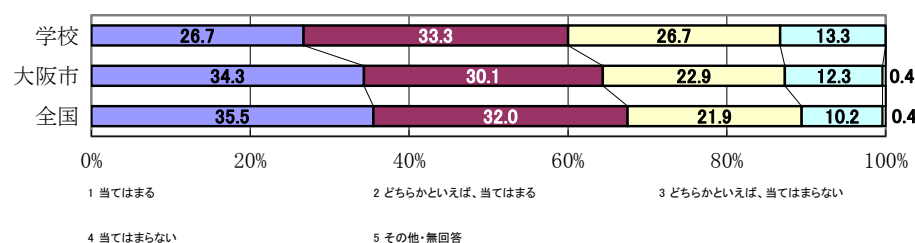
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



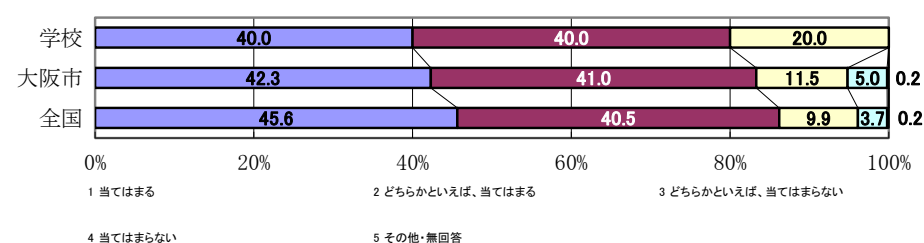
7

将来の夢や目標を持っていますか



12

学校に行くのは楽しいと思えますか



令和7年度 大阪市立心和中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

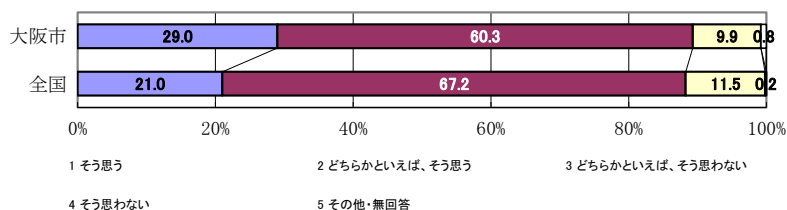
質問番号

質問事項

25

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

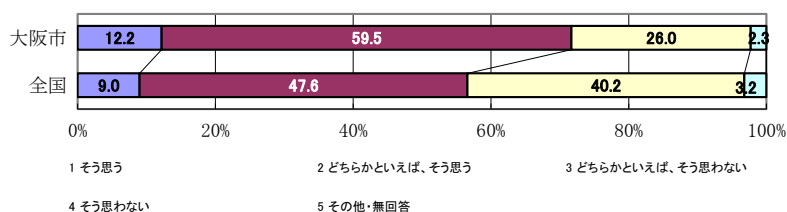
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



29

調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか

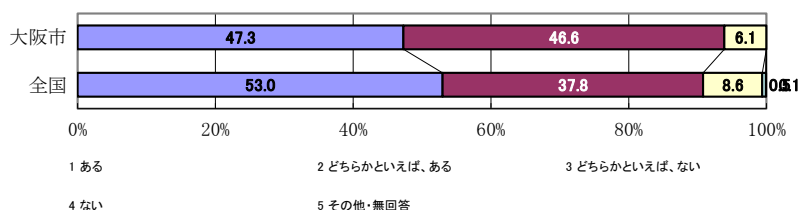
学校 「そう思う」を選択



56

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか

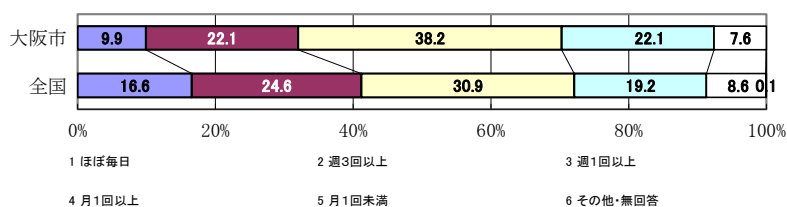
学校 「ある」を選択



63

調査対象学年の生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「ほぼ毎日」を選択



学校 「」を選択

